

福岡大学経済学部「ベンチャー起業論」を学ぶ学生たちの  
課題解決型プログラムでWin-Winの成果を目指す

# 「はぴえんプロジェクト」



TORIUS to BIZ Episode vol.2

11/23(祝・土)トリアスで「ニコニコマシンフェスティバル」イベントが開催されました。このイベントは、福岡大学経済学部ベンチャー起業論を学ぶ学生が中心になり、企業課題の解決を、学生の視点で提案するための課題解決型プログラムの一環として実施されたものです。この日、現場のイベントを学生と共に進めていたのは、課題解決型プログラムの受け入れ企業である、キャニコム(株式会社筑水キャニコム/本社 うきは市吉井町)の社員の皆さんです。キャニコムは国内営業拠点8拠点(従業員数319名、20代~30代が半数以上)50~60%世界55カ国に販路を持っています。農業用・土木建設用・林業用運搬車・草刈作業車及び産業用機械の製造販売をしている企業で、シェアは海外が60%、国内40%あります。



キャニコムの機械がトリアス久山に大集合!



笑顔の学生さんが迎えてくれました



うきびーと笑顔のプロジェクトリーダー

## 学生のフラットな視点に期待

学生が、受け入れ企業として参加してもらえるように地元の企業に依頼に回り、今回初めて受け入れを決めたキャニコム。受け入れたきっかけなどを、人事企画チームの秀平佳代さんに伺ったところ、このプロジェクトは、学生側は授業の一環であり、直接企業の課題を発見し、解決案を提案できるメリット、企業側は自社が持つ課題を、企業の視点ではなく、学生の視点から何のフィルターもかけずに見つけてくれるのではないかという期待があった、とお話してくださいました。



キャニコム人事企画チームの秀平さん

インターンシップでは、営業スタッフ、社長から会社を理解してもらうための情報提供、学生から担当社員にヒアリングを行い、8月には合宿を実施し(営業スタイルの体験、ユーザー農家への同行、他社製品利用農家へのヒアリング等)、学生起案の内容を会社に提案してきました。そして、今回、国内売り上げを伸ばし、農家以外の業界の方のボヤキを集める手段として、展示会&イベントを学生が企画し開催しました。

## 企業の機動力&学生の発想力が生み出す相乗効果

キャニコムはユニークな社風、商品への面白いネーミングなどで知られており、社員は機動力のある人材が豊富な企業です。この日はなんと、当日の朝にデザイン担当社員が作詞・作曲したという「はぴえんプロジェクト」テーマソングが流れていました。当日の朝に歌入れまでして流しているという驚きの機動力です。学生さんの思いきりのよさや、社会人では思いつかない柔軟な発想が、関わった社員の刺激になり、相乗効果が生まれたのではないのでしょうか。

今回の受け入れで、地元福岡に面白いネーミングの機械をつくるB to Bのものづくり企業「キャニコム」があること、草刈機まさおシリーズやフルーティまさお(まさおシリーズの中でも四駆で走破性がある)等の商品を知ってもらう良い機会になったと感じています。そして就職したい!と思ってくれるといいなという気持ちがあります。機械に興味を持つきっかけとなり、営業、開発に関わる若者が増えてくれると嬉しいと、人事企画チームの秀平さんはおっしゃっていました。

このインターンプログラムの最後を飾るのは、12/21(土)に行われるビジネスプランの最終発表です。最終選考に残り、優勝することが目標で、発表までに新しい販路の確立など学生メンバーで考えているようです。

インターンシッププログラムで参加している学生側にもお話を聞いてみました。



知る人ぞ知るフルーティまさおに乗ってニコニコ

## 学生主導でつくる「はぴえんプロジェクト」

まず、このプログラムは、大学のゼミのメンバーを中心にやりたい人が手を挙げて、学生主導ですべて考えて動くということを理解し、参加することを条件に、インター先を決め、プレゼンした内容に共感してくれた25名のメンバーがキャニコムのインターンを選択しました。リーダーで、福岡大学 経済学部 産業経済学科 2年の中山美空さんが音頭を取り、キャニコムが扱っている運搬車【運ぶ】から、HAPPY(ハッピー)を運ぶ、そして、キャニコムの社訓「ものづくりは演歌だ」の(えん)を取りプロジェクト名を『はぴえんプロジェクト』と名付けました。最終的にはビジネスプランコンテストに優勝してHAPPY ENDに!という想いもあるそうです。



みんなて草ポーマーズになろう!



うきびーもニッコリ

今回のインターンで学生メンバーが取り組んだことは「会社について知る」ことを念頭に、「客観的に知る」「商品を調べる」ことを徹底的に行い、また、他社の商品を利用している人の、キャニコム商品や他社製品に対する「ボヤキ」を集めることでした。会社にフィードバックしたところ、すでに会社はその「ボヤキ」を把握しており、取捨選択して新商品を作っていることが分かりました。また、農業機会としての利用にとどまらず、他業界でも使われていることを知り、販路を拡げるための戦略として、他業界での利用をもっと増やせないかと考えたそうです。そこで、今回のイベントを活用し、一般の方や、子どもたちに実際に見て、触って、乗ってもらうことで、思いもつかないヒントが得られるのではないかとイベントの実施に至りました。



はぴえんプロジェクトってこんな活動です



楽しいぬりえコーナー



どんな作品ができたかな?



ガチャガチャ何が出たかな?



キャニコムコーナーも大賑わい!



初めて見る機械もいっぱい!  
親子で楽しんでくれましたか?



うきはの物産コーナーも盛況

長期のプログラムの中では、毎週1回水曜日の[企業改善プロジェクト]会議で、課題を発見し、その課題について思考・検討し、解決に導くアクションについて討議しており、実際に草刈りを体験させてもらったこともあるとのこと。

10数名のメンターの先生方にアドバイスや、ケーススタディを提示いただきながら、プロジェクトの中身をブラッシュアップして、現在まで進めています。



4年生も頑張ってます!



乗用体験コーナーでバチリ!

## 最終的には企業にとって役立つ提案を

最後に、12/21のコンテストの最終プレゼンについて聞いてみました。「まずは、選考会を突破する秘訣は行動力です。そして、選考に残りビジネスプランコンテストの優勝は目標

であり、ゴールではありません。最終的にはキャニコムに役立つ提案をしたいと思っています。キャニコムの社にはある“義理と人情をお届けします”に私たちメンバーはプラス元気で頑張りたいと思います」と、元氣よくお話ししてくださいました。

トリアスでも、このような産学連携の事業の応援を引き続きしていきたいと思っています。



キャニコム社員とプロジェクトメンバーの皆さん



元氣いっぱい学生プロジェクトメンバー

### ユニークなネーミングの【運ぶ】機械たち!

農業以外にも活躍の場があるんです。名前の由来が気になります!

